

♪ 春は名のみの野の寒さや〜♪ で始まるこの歌は誰でもご存じのこととは思いますが、言うまでもなく“早春賦”の冒頭の歌詞です。3月も中旬と言うのに時としてこの「野の寒さ」を感じさせられる日の多い今年の春です。三寒四温とはよく言ったもの、日頃の散策・外出にも気象に合わせ装い出かけています。(因みにこの「早春賦」の“賦”とは漢詩を歌うこともしくは作ることを指し、「早春に賦す」が原義で1913年に発表された吉丸一昌作詞、中田章作曲の日本の唱歌。長野県大町市から安曇野一帯の早春の情景をうたった歌とされています。)

一方で「いはばしる垂水の上のさ蕨の、萌え出づる春になりにはけるかも」など万葉集・古今集などにも多くの「春」を詩代とした詩が収められており、春を待ち焦がれる人の心は昔も今も変わっていないのでしょう。附近を散策すれば、日に日に草木の花々が増えては来ているのですが・・・私などは

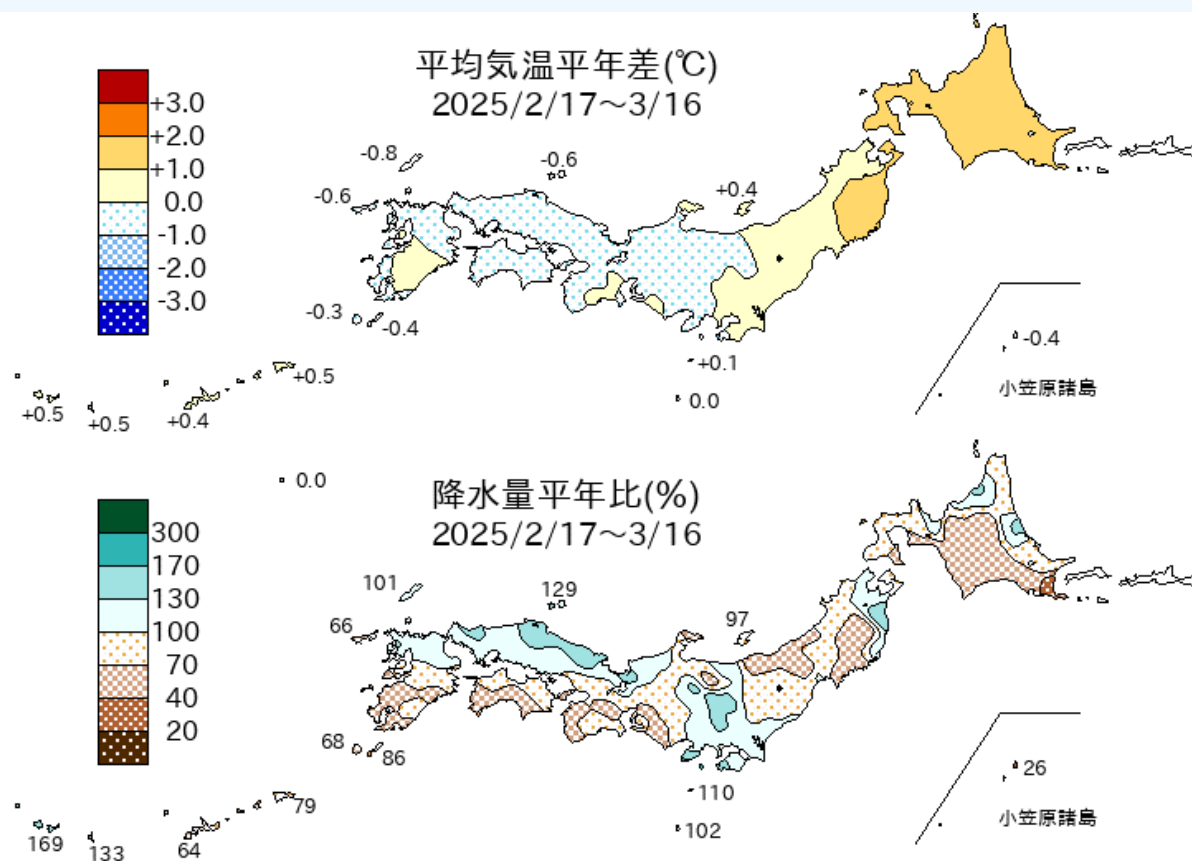
「雀なくな、いい日和だな、うっとり、うっとり、ねむいな。上の脛はあこうか、下の脛はまアだよ、うっとり、うっとり、ねむいな。」(金子みすゞ「春の朝」)がぴったりの昨今です。

でも、足腰と最近物忘れの多くなって来た頭の健康維持のため近所歩きと「花だより」は続けて行きたいと思っています。お付き合いのほどよろしく！

1. これまでの気象の経過状況と見通し

1-1. これまでの4週間の全国の天候経過 (気象庁3月17日発表)

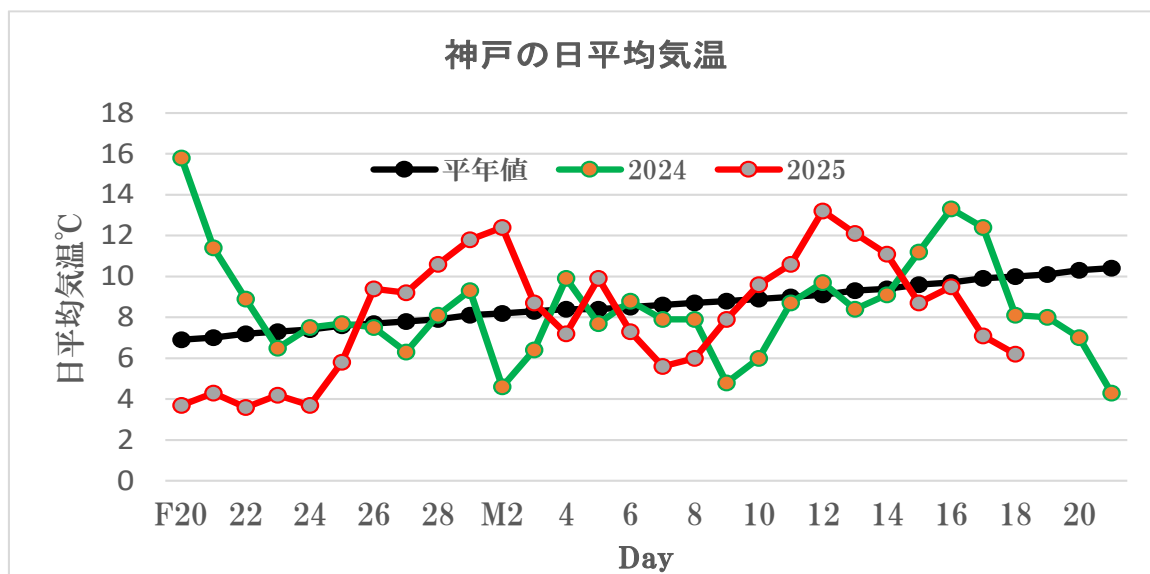
前4週間の気温、降水量、日照時間の平年差・比



＊この気象の経過図から２月中頃から３月中頃にかけての全国の気温と降水量（いずれも平年比ですが・・・）の傾向が読み取れると思います。前回の２週間前に比べ気温に関しては若干高めとはなりましたが、それでも関東以西の地域で平年より０～１℃低くなっています。北日本、北海道では平年並みか若干高めに推移してきたことが分かります。また、降水量に関しては南岸低気圧の通過などあり、改善はされてきていますが、西日本・日本海側、関東などの地域を除いて平年以下の降水量が続いて来ています。

１－２．神戸の気温経過は・・・

上記の期間の気温を平年値、昨年、および今年の経緯を下記のグラフに示しておきます。



気温に関しては３月に入っても寒暖を繰り返しやすい状況になっています。

なお、降水量に関しては前報では12月は0.5mmと極端に少なく、1月も24.5mm、2月も14mm、冬季90日間全体でも39mmと極端な少雨状態であったと記述いたしましたが、3月に入ってから16日までに、**61mm（平年値3月94mm）**と植物たちには慈雨となったと思います。

今後は？ 最近発表された大阪管区気象台の向こう4週間の予報は下記の通りです。

１－３．近畿地域の向こう1ヶ月の天気予報（大阪管区気象台3月13日発表）

＊向こう1ヶ月の天候の見通し全国

北・東・西日本、日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。北・東・西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

＊近畿地方（3/15～4/14）

1週目の気温は寒気の影響を受けやすいため低いですが、2週目は暖かい空気が流れ込みやすいためかなり高くなる可能性があり、期間の前半は気温の変動が大きいでしょう。

＊向こう1ヶ月の天候

近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わ

り、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

*平均気温：低 20 並 40 高 40% 平年並みか高い 降水：量少 40 並 30 多 30% **ほぼ平年並**の見込み
第 1 週目（3/15～3/21）天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や前線の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。 気温：低 70 並 20 高 10% 低い見込み

第 2 週目（3/22～3/28）天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。 気温：低 10 並 30 高 60% 高い見込み

3～4 週目（3/29～4/11）近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

気温：低 30 並 30 高 40% ほぼ平年並の見込み

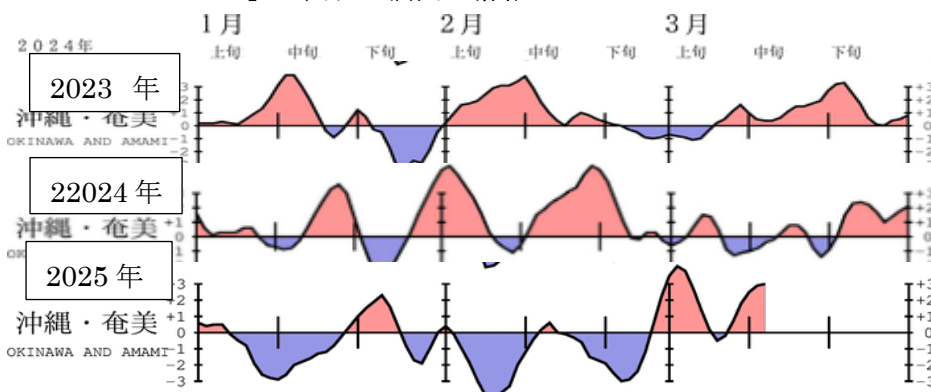
2. ウメ（白梅）の開花

前報で触れましたように、今年は西日本地区の冬季気温が低目であった為、各地とも開花が遅れました。地域によっては平年、開花の早かった昨年と比べると 20～30 日も開花が遅れた地域も出てきています。この附近でも 2 月末の温暖な日以降にやっと彼方此方で開花が目につくようになりました。遅れていた京都も 3 月 11 日に開花宣言され、近畿地区の開花日がそろいましたので改めてまとめておきます。満開の早かったこの附近では遅咲き種は別として落花した樹を多く見かけます。開花の早かった順に・・

観測地	開花日	平年比	昨年比
神 戸	2 月 12 日	6 日遅い	24 日遅い
奈 良	2 月 15 日	15 日遅い	31 日遅い
和歌山	2 月 19 日	7 日遅い	20 日遅い
大 阪	2 月 27 日	14 日遅い	25 日遅い
彦 根	3 月 03 日	11 日遅い	30 日遅い
京 都	3 月 11 日	17 日遅い	25 日遅い

と言う結果でした。 各地とも、公園、天満宮などの梅林の見ごろは去年に比べて 1 ヶ月遅れとなったのではないのでしょうか。

3. 「ヒカンザクラ」の開花・満開の情報



奄美・沖縄地区の気象庁・生物季節観測のサクラ基準樹種としてはヒカンザクラが選ばれていますが、戦線報では同地区 4 ヶ所での開花を記述しました。何れも 1 月の開花でしたが、その後満開が報じられているのは、宮古島の 2 月 4 日のみ、他

所の満開は記録されていません。例年奄美・沖縄地区では開花後 15～20 日程度で満開となるのが普通ですが、この地域も例年に比べ上図のように 2 月の気温が低めに推移しているので開花期が長くなっているのかもしれないと思いますが・・少々遅れが大きいようにおもいます。2 月の気温の高かった 2024 年

には石垣島で満開が記録されなかったことはありますが今年は低めの経緯ですので不思議です。

私の観察している芦屋川沿いの公園での本種観測地での開花は、昨年は2月18日でしたが、今年はかなり遅れ、3月15日の観察では0.5分程度の開花が見られたので、3月14日を開花日としておきます。

	開花日	満開日	c f . 1 2 ~ 2 月 積 算 温 度
2021 年	2 月 2 1 日	3 月 5 日	7 9 1 ℃・Day
2022 年	3 月 3 日	3 月 1 5 日	6 1 2
2023 年	3 月 4 日	3 月 1 2 日	6 6 4
2024 年	2 月 1 8 日	3 月 2 日	7 7 5
2025 年	3 月 1 4 日		6 2 3

・ 当地では冬季の積算温度と比較して見ると暖冬の年ほど早やく開花する傾向があることが分かります。ただ、今年に関しては積算温度以上に2月の気温が異常に低かったことが開花の遅れに影響したのではないかと考えています。ご存じのように、この桜は平開するのではなく下向きに開くので、開花や満開の判定も難しいですね。



4. カワズザクラ

ご存じの通り、毎年 TV 等のニュースなどで、開花が報じられるのがこのカワズザクラ（河津桜）です。この桜の生誕の地の河津町では、開花に合わせて毎年2月1日より月末まで「サクラ祭り」が開催されて来ていました。ただ、今年は2月の気温が影響し、通常は1月末から2月初旬に開花するのが、2月中旬以降の開花、2月末の気温の異常上昇で一気に開花、3月初旬から見頃となったとのことです。この為、町の観光協会は桜まつりも1週間延長したと報じられています。

既報のようにこの桜は個人によって偶然発見され庭先に植えたことに由来。その後の学術調査で今までに無かった雑種起源の品種であると判明し、1974年に「カワヅザクラ（河津桜）」と命名されました。現在も原木はこの地に存在しますが、挿し木で増やされ、現在では全国各地に植栽されるようになって来ています。関西では京都の淀が有名ですが、植物園や大きな公園などには植えられていることが多いので眼にされている方も多いでしょう。

なお、カワズザクラはヒカンザクラとオオシマザクラ交雑種とされていますが、同様に伊豆半島地域を中心にヒカンザクラとオオシマザクラ系としては早咲きの品種として「土肥桜・白浜伊古奈・修善寺寒桜・大寒桜・城ヶ崎桜・伊東桜」なども知られているようです。

既報のように、住居近くの芦屋市・東山町の「東山公園」にはこのカワズザクラ51本が植栽されていますが、ここも大幅に開花が遅れ、3月2日に設定されていた地域の「サクラ祭り」時には一輪の花も見られない状況でした。（3月14日7分程度開花の観察木）



	開花日	満開日
2021 年	2 月 21 日	3 月 5 日
2022 年	3 月 3 日	3 月 14 日
2023 年	2 月 25 日	3 月 9 日
2024 年	2 月 12 日	2 月 26 日
2025 年	3 月 6 日	3 月 17 日

5. セイヨウミザクラとシナミザクラ

早咲きのサクラとしては、ヒカンザクラ系が多いがミザクラ（サクランボ原種？）系も結構開花が早い。一般的にはシナミザクラが良く知られるが果実は美味とは言えず、どちらかと言えば早咲きザクラの園芸種の交配種（代表的なのが啓翁桜）として使われている。セイヨウミザクラも早咲き系であるが、果実は酸味と甘みが感じられこちらは果実用として植栽されるのであろう。今年も、この2種が既に開花期となっているので記載しておきます。

＊＊セイヨウミザクラ

近くのマンションにこのサクラの植えられたのは3,4年前であると思われます。3年前は気付いたときには既に満開となっていました。その後見て来ていますが、この桜の開花日と満開日は下記の通りです。

2023 年	3 月 5 日開花	3 月 8 日満開
2024 年	3 月 2 日開花	3 月 10 日満開
2025 年	3 月 7 日開花	3 月 12 日満開



＊シナミザクラ

住いの近くに3ヶ所シナミザクラが植えられており、その内の1本を標準木に決めて、開花・満開などを観測して来ています。開花は上記のセイヨウミザクラよりは今年は遅れました。

・観測標準木について、ここ5年間の開花記録を並べておきます。

	開花日	満開日
2021 年	2 月 2 7 日	3 月 3 日
2022 年	3 月 1 2 日	3 月 1 5 日
2023 年	3 月 8 日	3 月 1 1 日
2024 年	3 月 4 日	3 月 1 2 日
2025 年	3 月 1 3 日	3 月 1 7 日

＊本年、他所では開花3月12日、満開3月16日の樹もありました。



6. 今年のソメイヨシノの開花日は？

本年度は日本気象（株）の開花予想を中心に上げてきています。3月13日に第8回目の予想を発表していますので取り上げておきます。

＊全国的に平年並みか平年より遅めの開花に

今シーズンは全国的に休眠打破の時期は平年より遅くなった見込みです。北日本では休眠打破後にその遅れを取り戻しますが、東日本・西日本では休眠打破の遅れの影響が響く見込みで、全国的に平年並みか平年より遅めの開花となる地点が多いでしょう。

3月26日に東京と高知で開花がスタートし、続いて九州地方、東海地方でも開花し始める予想となっています。

[東日本・西日本]

東日本では、10月は平年よりかなり高め、11月は平年より高め、12月は平年並み、1月は平年より高め、2月は平年並みの気温でした。西日本では、10月から11月にかけては平年よりかなり高め、12月から1月にかけては平年並み、2月は平年よりかなり低めの気温でした。10月から11月にかけての高温の影響で休眠打破の時期は1週間程度遅れた見込みです。東日本・西日本では3月は平年並みの気温が予想されています。

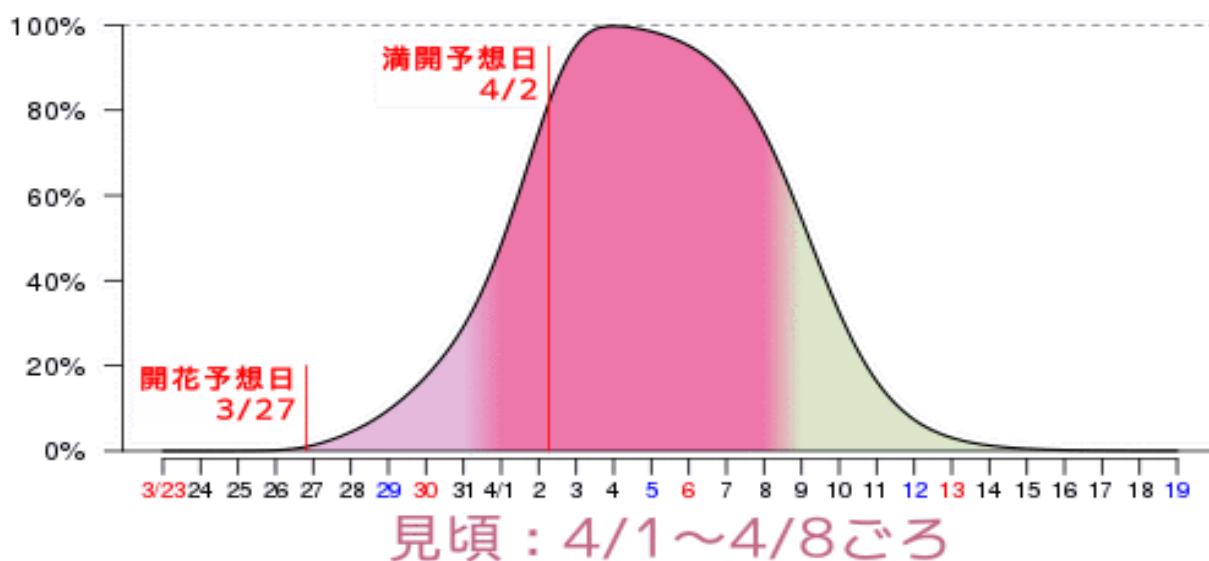
開花時期は、東日本では平年並みか平年より遅く、西日本では平年より遅いでしょう。

*近畿地方の開花・満開予想日（3・15発表）

地点	開花予想日	平年差	昨年差	満開予想日	平年差	昨年差
大阪市	3月27日	0	-3	4月03日	-1	-3
京都市	3月28日	+2	-1	4月04日	0	-1
神戸市	3月29日	+2	-3	4月06日	+1	-1
奈良市	3月27日	-1	-4	4月03日	-1	-5
和歌山	3月26日	+2	-4	4月02日	-1	-1
彦根市	4月02日	+1	0	4月09日	+1	0

2025-03-13

大阪



以上、予想は予想ですが参考にして下さい。いずれにしても、当初各社共、平年よりは早い開花予報でしたが、この冬平年の気温を上回った北日本を除き平年並みか若干遅いの予報に代わってきています。

ただ、近くのソメイヨシノの芽を観れば少し膨れ、先端が緑色に変わって来ていることは確か、着実に開花に向かっていることが伺えます。冒頭の気象予報通り来週（22日）以降気温が高くなれば開花が遅れるようなことはなさそうです。

余談ながら今年の芦屋市の「サクラ祭り」は4月6日に設定されており、丁度見頃となるのではないかと考えています。

7. ソメイヨシノの「芽」の中の変化

ソメイヨシノの芽は前述のように、芽が少し膨れて来たナ、芽の先が少し開き緑色になってきたナ程度はどなたも実感されていると思います。でもこの間“芽”の中はどう変化しているかを観てやろうなと思う方はいらっしゃるでしょうか？多分、昨年の公開講座で講師のお名前は失念したが、「何でも切って内を覗こう・・・」が私の頭には残っておりソメイヨシノの芽で試してみることにした。

先報では「髓」について幾枚かの映像を紹介したが、ルーペや実体顕微鏡などなくても「スマホ」の写真機能で十分対応できる事例を紹介したつもりである。今回も同じスマホ画像である。

右の写真は上が3月6日の花芽の裁断画像、下は先が少し開き緑色が覗いたかな？の16日時点の画像である。上の画像からこの時点では芽としては8mm程度の大きさであるが、「花」となる部分は2mm程度の大きさで花としての形体があるのかどうかは分からない。しかし16日の画像では少なくとも3mm程度の中身の中に2個の蕾らしき姿が観てとれる。また、鱗片葉の先が緑色に



変化して来ていることが分かるでしょう？

ついでに16日採取の短枝の頂芽である葉芽の断面画像も掲載しておきます。こちらは、将来、短枝となり枝葉を展開する部分、分化の様子はわかりません。

皆様もお持ちの「スマホ」で試みられてはいかがでしょうか？

8. 雑！

以上は「花だより」とは言え「サクラ」に関する記述となってしまいましたが・・・。今月のMNCの観察会の中から。3月13日 北山緑化植物園（午前）→北山ダムのルートでの観察行。MNCでは当日参加者20名を超えた場合は2, 3グループに分けるのが慣例。案内者はリーダーが当日参加者の中から指名。当方も1G受け持ちとなる。花の少ない季節だが、バイカオウレン、ミスミソウをはじめ、種々の園芸種の開花、ジュウガツザクラ、ミツマタ、3種のマンサク、サンシュウ、ネコヤナギ類、ツバキ・山茶花、アセビ等々の花もあり題材には事欠かない。でも、このようなものを普通に案内しては面白くない。次の様な問い掛けから始める。皆様も考えて見て下さい。 (満作 X シナ満作=ディアン→)



＊ハクモクレンの冬芽：芽の下を一周する2本の線は何でしょう？

＊一年枝の分岐：ミツマタとハウノキの分岐の違いは？ 普通は冬芽からシュートは1本ですが・・・。

＊ツバキと山茶花の違い・・・誰でも知っている。だが、落ちたツバキの花からメシベを探せ！

さすがベテランの方は知っている。

＊ネコヤナギ・・・咲いているのは雄花、雌花？ （ヤナギ科の樹木は雄株と雌株がある）

ここは植物園だよ！ 雌雄を決めた根拠は？

＊コナラ・クヌギ・・・枝に枯れ葉が落ちずに残る。どうして？

以上は一例ですが・・・当日の観察会時の会話です。

3番目の答えは、右の写真です。メシベが落ちてしまっただけです。落下するのは合弁花・花弁とその内側につくオシベだけです。では「ツバキ」の萼はどこにあるの？ピンクの部分、それとも芽鱗全体を「萼」と称すべきでしょうか？



左は蕾硬しのころ、右は開花近くの蕾。オシベは早くからあり、芽鱗（鱗片葉）が花弁や萼に変化？ 余白在りきですので、最近の近所歩きで見かけた樹の花を並べておきます。何の花でしょう。



左下、左中は少し難しいかも。
分ければ一報下さい。
本報は以上まで。